



2020年9月7日

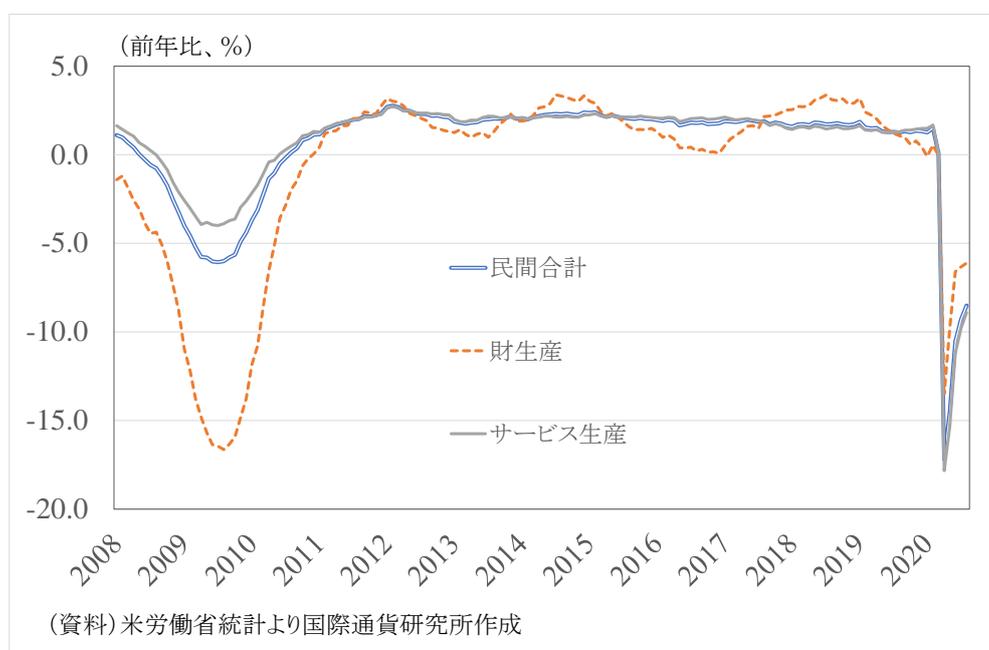
### 米雇用統計にみる新型コロナ不況の特徴 3

公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部 上席研究員 森川 央

8月の米国雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月から137.1万人増加した。4か月連続の増加であるが、増加ペースは5月272.5万人増、6月478.1万人増、7月174.1万人増と勢いが失われつつある。また8月は国勢調査のための一時的雇用が23.8万人含まれているので、実態は更に鈍いことになる。また失業率も7月の10.2%から8.4%に改善したが、労働省によると失業者が誤って雇用状態にあると分類されたケース<sup>1</sup>を調整していれば、失業率は0.7ポイント上乗せされ9.1%であった。

そして、今回の不況の特徴、本来安定しているはずのサービス業の雇用喪失が深刻という状況は、8月も変わっていない。

図 1 米国の業種別雇用



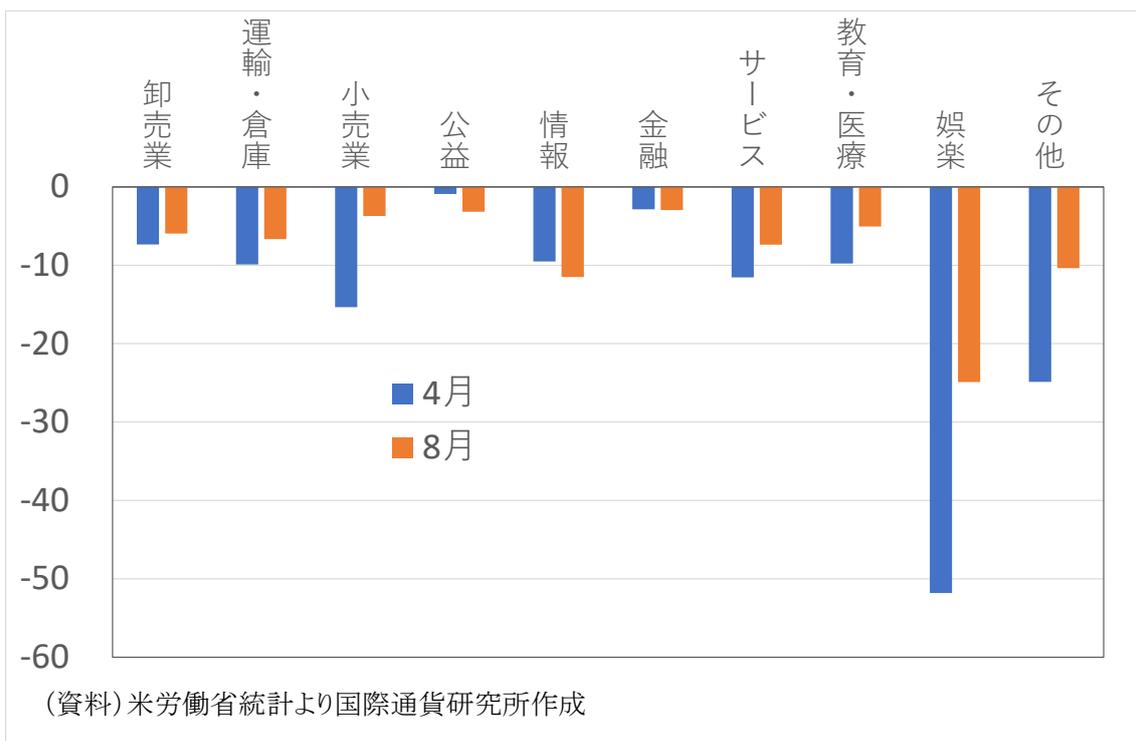
<sup>1</sup> <https://www.bloomberg.com/news/articles/2020-09-04/u-s-jobless-rate-declined-to-8-4-in-august-extending-rebound>

財生産業の生産従事者雇用<sup>2</sup>は、4月の前年比-13.5%から、5月-9.8%、6月-6.6%、7月-6.3%、8月-6.1%へと改善してきた（図1）。しかし、サービス生産業は4月の前年比-17.8%から、5月-15.4%、6月-11.2%、7月-9.8%、8月-8.9%と、まだ2桁に近い減少率となっている。そして、どちらも7月、8月は改善が鈍っている。

次に、サービス生産業の内訳をもう少し詳しくみると、飲食店などの対人サービスを含む娯楽・ホスピタリティー<sup>3</sup>の雇用は、4月の-51.8%から8月-24.9%に改善した。レジャーは雇用全体に占める比率が13.9%と高い業種である。改善は歓迎すべきことながら、6月-30.1%、7月-25.8%と、足元の回復は極めて鈍い。回復が大きいのは小売業（雇用全体に占めるシェア12.6%）で、4月-15.4%から8月-3.7%となっている。「巣ごもり消費」が小売に貢献しているため、雇用も比較的早く回復してきている模様である。

しかし、他のシェアの大きな業種の改善は芳しくなく。サービス（シェア16.4%）の前年比は、4月-11.5%、8月-7.4%であった。教育・医療（シェア20.2%）も4月-9.8%に対し8月-5.1%である。

図2 サービス生産業の雇用（前年比%）



雇用状況も第2フェーズに入り始めたと考えられる。恒久的に職を失った人の数は50万人余り増えて341万人となった。雇用喪失は、新型コロナ蔓延による一時帰休では終わらず、感染の長期化による長期休業、倒産による雇用の消滅に移りつつあると思われる。

以上

<sup>2</sup> 経理など管理部門を除いた雇用数を示している。

<sup>3</sup> グラフ内では娯楽としている。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。